

素敵に輝け！

日々の一つ一つが学び

各教室を順に回って1年教室に入りました。授業は道徳でした。教材名は「みんなでまもろう」。私たちの周りがあるきまりについて学習していました。蛇口から水がポチョポチョ落ちていた場面、グラウンドに使ったボールが置いたままになっている場面等の絵を見て、どうすればよいかを考えていました。

学習の途中、Aさんが先生の所へ行き、「ティッシュをください」とお願いしました。先生は「今、1枚しかないの。誰か助けてくれる？」と問いかけました。すると「はい」の返事と共に、数名の子が勢いよく手を挙げました。みんな優しいですね。その中からAさんは隣のBさんをお願いしました。

Aさん：「ティッシュをください」 Bさん：「1枚でいい」 Aさん：「1枚でいいよ」と答え、鼻をかみました。

先生：「こんなとき、どう言ったらいいの」 Aさん：「ありがとう」

先生：「どこを向いて言ったらいいの」

Aさん：(Bさんの方を向いて)「ありがとう」 Bさん：「いいよ」

先生：(すぐに言えなかったことに)「今鼻をかんでいたからね」

道徳で学習している「こんなときどうすればよいか」の一場面のようなものでした。Aさん、Bさん、そして先生。それぞれの言葉に優しさがありました。互いの優しさに触れながら、「こんなときどうすればよいか」を学びました。日頃の一つ一つの行いが学びの機会ですね。

言葉がもつ力

運動会本番を前に、練習でかいた汗がしみこんだ鉢巻きと手袋を学校で洗うことにし、用務さんに洗濯してもらいました。

翌日のことです。6年生Aさんが「手袋と鉢巻きを洗ってくださってありがとうございます」と廊下で出会った用務さんにお礼を伝えたそうです。これは担任さんも知らなかったことらしく、自主的なことだったようです。その後、用務さんがすれ違う6年生毎にお礼を受けたそうです。素晴らしいことです。

日は移って運動会が終わった午後のことです。階段を上る男児に向かって、「運動会、ごくろうさん」と声をかけると、「校長先生こそ、お疲れ様でした」と労ってくれました。びっくりしました。「こんな挨拶をしてくれる子がいるんだ」と。私がかけた言葉をしっかりと受けて返してくれています。驚いて、名前を確認するのを忘れてしまいました。嬉しかったし、感心しました。

言葉は力をもっています。温かい言葉や自分のことを思っている言葉をかけてもらえると、嬉しくなるし、優しくなれることもあります。また、ほっとしたり勇気が出たりするときもあります。温かい言葉、思いやりのある言葉を使っていきたいものですね。